



## むかわ町穂別産恐竜の頭骨一部を発見

### 発見のポイント

- ・ 2014 年 9 月の発掘により採集された岩石の中から、ハドロサウルス科の頭骨の一つである上顎骨の一部が発見された。これにより、頭骨の残りの部分もノジュール内に含まれていると考えられる。
- ・ 恐竜頭骨の発見は、北海道 2 例目（1 例目は夕張市から発見されたヨロイ竜の頭骨の一部）。ハドロサウルス科の頭骨の部分としては、国内 3 例目（残り 2 例は、熊本県御船町と兵庫県洲本市）で、このうち白亜紀末のものとしては、兵庫県洲本市に次いで国内 2 例目。ハドロサウルス科上顎骨の発見は国内初。
- ・ 上顎骨は多くの重要な特徴を有し、分類や生態の研究に重要な部位である。

### 発見の概要

北海道むかわ町穂別（図 1）に分布する上部白亜系函淵層の海成層（約 7,200 万年前の外側陸棚堆積物、水深およそ 80～200 メートルの範囲内）からハドロサウルス科の骨格化石が発見されています。（以下の URL を参照）

「むかわ町穂別から恐竜化石を発見ーハドロサウルス科恐竜か」（H25. 7. 17）

URL: <http://pomu.town.mukawa.lg.jp/item/2891.htm#moduleid1550>

「平成 25 年度恐竜発掘成果報告ーむかわ町穂別から恐竜全身骨格化石を確認」（H26. 1. 17）

URL: <http://pomu.town.mukawa.lg.jp/item/3132.htm#moduleid1550>



図 1 : むかわ町穂別の位置図

平成 26 年度 9 月に第 2 次発掘が行われました。以下がその概要です。

#### 1. 調査体制

- (1) 北海道大学 : 27 名 (小林准教授, 大学院生・学生等 11 名, 博物館ボランティア 10 名, その他教職員等 5 名)
  - (2) むかわ町立穂別博物館 : 5 名 (学芸員 2 名, 学芸補助員 3 名)
  - (3) その他大学等 : 7 名 (東京学芸大学 2 名, 東京大学 3 名, 筑波大学 1 名, 他 1 名)
  - (4) 民間業者 : 2 名 (重機操作)
- 総計 : 41 名

#### 2. 調査日数・作業人数

- (1) 調査日数 : 21 日間 (9 月 4 日から 30 日まで : 日曜日 4 日, 雨天等 2 日)
- (2) 作業人数 : 延べ 283 人 (平均 13.5 人/日)

この調査によって, 以下の成果がありました。

- (1) 恐竜化石を含む岩石の採集範囲 : 長さ 4 m × 幅 4 m (2013 年第 1 次調査と合わせて長さ 4 m × 幅 7 m)
- (2) 回収した化石含有岩石の量
  - ・石膏ジャケット : 10 個 (2013 年第 1 次発掘は 20 個採集)
  - ・コンテナ : 134 箱 (2013 年第 1 次発掘は 59 箱採集)
  - ・重量 (概算) : 約 4 トン (2013 年第 1 次発掘は 2 トン)
- (3) 確認された成果
  - ① 標本数 (記録上) : 1,040 点 (うち 351 点が恐竜化石)
  - ② 遊離した歯 : 100 点以上 (うち 3 点は 2013 年第 1 次発掘で採集)
  - ③ 左大腿骨

発掘終了後, 頭骨が保存されていると思われる部分 (図 2, 3) から取り出された岩石を観察したところ, 頭骨の断面と思われる化石 (図 4) が露出されました。この骨化石の同定を確認するため, 穂別博物館において早急にクリーニング作業を行いました。



図2：産地の写真と上顎骨が発見された場所（赤丸）

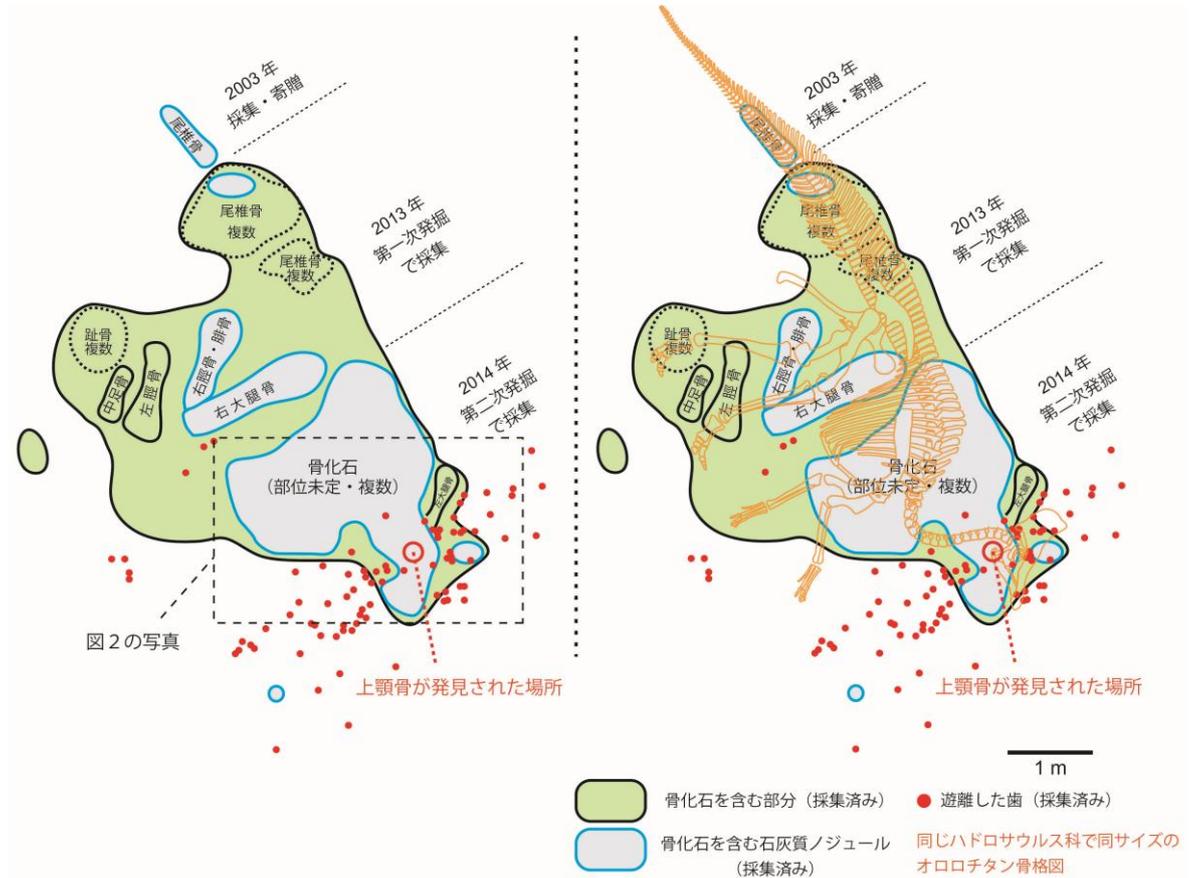


図3：産地で発見されたハドロサウルス科の骨化石の分布及び上顎骨と歯の発見された場所：  
オロロチタンの骨格無し（左）と有り（右）



4：発掘時、頭骨と考えられた骨の断面

クリーニングされた骨を検証した結果、ハドロサウルス科の上顎骨の後部3分の1程度であることが確認されました（図5）。上顎骨の残りの部分は、未処理のノジュール中に残されているとみられ、今後のクリーニング作業が必要です。

今回の発見は、恐竜頭骨としては、夕張市から発見されているノドサウルス科（ヨロイ竜）に次ぎ北海道2例目です。また、国内のハドロサウルス科の頭骨としては、熊本県御船町と兵庫県洲本市に次ぎ国内3例目であり、白亜紀末ものとしては、兵庫県洲本市に次いで国内2例目となります。さらに、ハドロサウルス科上顎骨の発見としては国内初です。

これまでも穂別の恐竜化石が全身骨格である可能性が考えられており、今回の上顎骨の発見によって頭骨の他の部分も未処理のノジュールに含まれている可能性が高くなりました。頭骨は、分類の研究上でも多くの情報を含んでおり、穂別の恐竜が新種か否かの鍵を握っている骨の一つです。また、穂別恐竜の系統学的位置を解明しハドロサウルス科の進化を知る上でも、重要な骨であると考えられます。さらに、上顎骨は歯が生えている骨であるため、この恐竜の食性や生態を知る上でも貴重な発見といえます。今後、上顎骨の付近のノジュールについて重点的にクリーニング作業を行い、残りの頭骨の骨を確認する作業が必要となります。

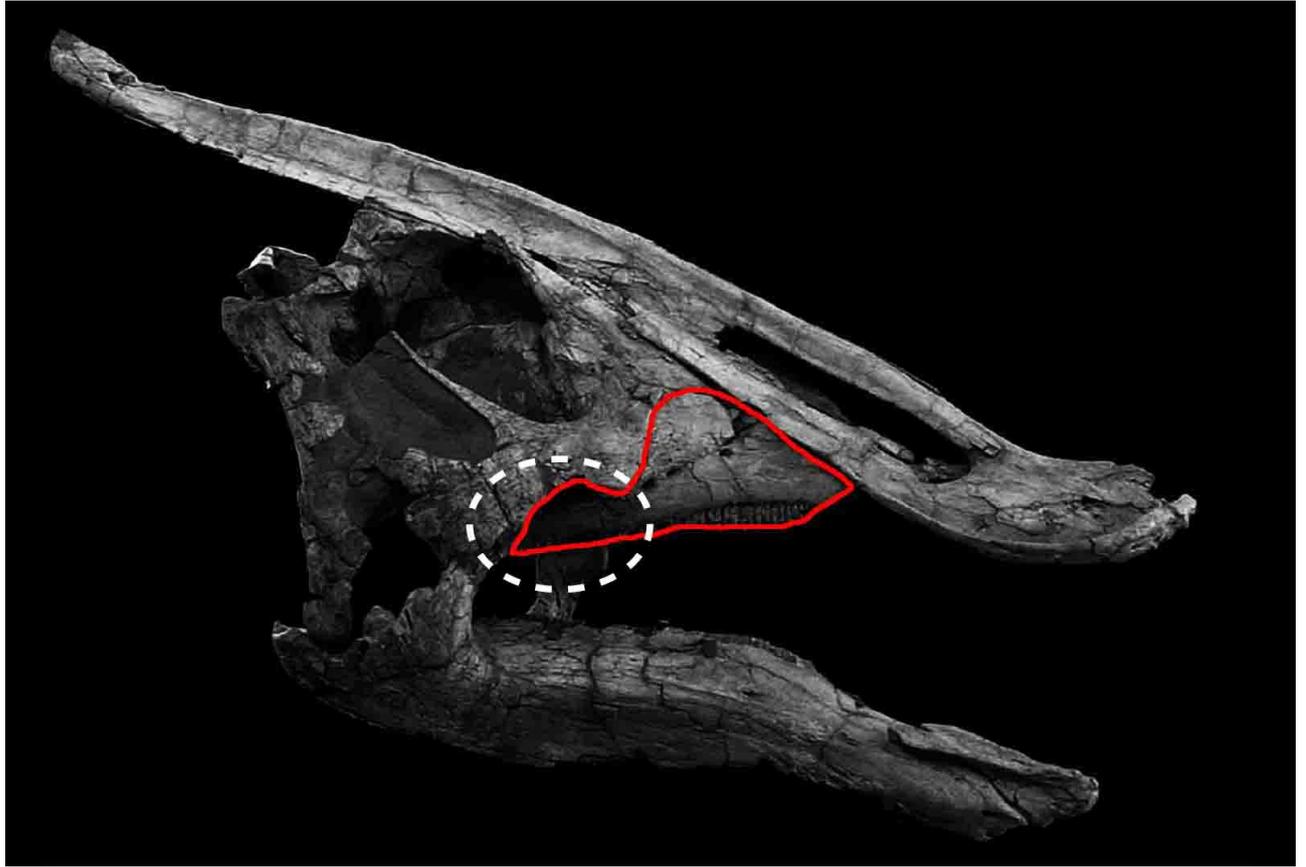


図5：上顎骨の位置（赤線）と今回確認された部分（白破線）。頭骨はモンゴル産のサウロロフス。

#### お問い合わせ先

所属・職・氏名：

北海道大学総合博物館 准教授 小林 快次（こばやし よしつぐ）

TEL: 011-706-4730 FAX: 011-706-4730 E-mail: ykobayashi@museum.hokudai.ac.jp

むかわ町立穂別博物館 学芸員 櫻井 和彦（さくらい かずひこ）・西村 智弘（にしむら ともひろ）

TEL: 0145-45-3141 FAX: 0145-45-3141 E-mail: hakubutukan@town.mukawa.lg.jp